

内科

# 加齢・老年病科

TEL 022-717-7736(外来)

完全予約制

科長 中瀬 泰然



診療科WEB



外来担当医表

認知症にはアルツハイマー型認知症をはじめ、レビー小体型認知症や前頭側頭型認知症などさまざまなタイプが存在します。症状も記憶力低下以外に注意力低下や言語能力低下、視空間認知障害などの中核症状、意欲低下や幻覚、妄想、徘徊などの周辺症状とさまざまです。また、うつ病や内臓疾患でも記憶障害や注意力低下のように認知症と似た症状が見られます。新たな治療策が開発されつつある今、認知症の鑑別や原因解明、早期発見などが重要といえます。認知機能低下が疑われる人から認知症になってしまった高齢者まで幅広く診療するため、「老年・もの忘れ外来」に加えて「認知機能外来」も高次脳機能障害科と協働して整備しています。

また、当科では「老年症候群」の精密な原因分析を行っています。老年症候群とは、正常加齢以外に複数の原因で生活機能低下につながる病態を指します。骨粗しょう症、せん妄、フレイルなど約20種類もの症状や状態が提示されています。種々の検査や総合機能評価を通じて老年症候群を評価し、介入可能な原因の同定と結果として生じ得るポリファーマシーへの対応を、薬剤部や看護部など多職種と協力して行なっています。

## 主な対象疾患

アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、脳梗塞後遺症・血管性認知症、パーキンソン病、多病を有する高齢者、総合機能評価が必要な高齢者、加齢性筋肉減少症(サルコペニア)、認知機能低下が心配な人、認知機能低下について画像診断を希望する人、ポリファーマシー改善を希望する人